

ブログによる情報提供を通じた“日本語パートナーズ” 教務支援

ータイ4期(2016年度)に対する取り組みー

佐藤五郎

[キーワード] 日本語パートナーズ、教務支援、ブログによる情報提供

[要旨]

筆者は、“日本語パートナーズ”(以下、NP)教務支援担当として、2014年度より継続的に、NPの学校訪問や、Eメール等を通じたコンサルティングなどを行ってきた。日本語教師ではないNPに対し、どのような支援をすべきか試行錯誤を続ける中で、「任期中一度も接触のないNPとのつながりをいかに確保するか」「NPのニーズに合った情報を適切なタイミングでいかに提供するか」という二つの課題が明らかになった。そこで、2016年度は4期に対して、筆者の個人ブログによる情報提供を開始した。ブログへのアクセス数、NPからのコメント、ブログ利用状況に関するアンケート調査の結果から、当ブログの有用性が認められ、そこで紹介した活動が授業でも実践されていることがわかった。同時に、「NPのニーズに合った情報の提供」「カウンターパート(タイ人日本語教師)との対話を促す手立て」という課題も浮き彫りになった。

1. はじめに

“日本語パートナーズ”(以下、NP)とは、ASEAN10か国の主として中等教育機関に派遣されるティーチング・アシスタントのことである。現地の日本語教師(=カウンターパート、以下、CP)のアシスタントとして、教材作成協力やチーム・ティーチング(以下、TT)、宿題の添削等を行うほか、授業や学校行事等での日本文化紹介活動を行う。アシスタントといっても、応募条件に日本語教育に関する知識や経験は含まれないため、「NPは教師ではない」ということが活動の大前提となっている⁽¹⁾。

筆者は、2014年9月にタイ1期(以下、「タイ」は省略し「〇期」と記す)が派遣されて以降、NPに対する教務支援を担当してきた。教師ではないNPに対して、どのような支援を行うべきか試行錯誤を重ねる中で、2016年5月より、4期に対してブログによる情報提供を開始した。本稿の目的は、このブログを通じた教務支援活動を中心に、タイにおけるNP教務支援業務について報告することである。

2. ブログ開設の背景

ブログ開設に至った背景を、①2014年度・2015年度 NP 派遣事業概要、② NP に対する教務支援業務の内容、③教務支援を通して明らかになった課題、の3点から述べる。

2.1 2014年度・2015年度の NP 派遣事業概要

2.1.1 NP 派遣実績

2014年度・2015年度の派遣実績を表1にまとめる。1校に1名派遣されるので、派遣人数がすなわち派遣校数である。

表1 タイにおける NP 派遣実績

年度	期	NP	派遣期間	派遣先県
2014	1期	29名	2014年9月～2015年3月(6か月)	21県
2015	2期	40名	2015年5月～2016年3月(10か月)	30県
	3期	12名	2015年8月～2016年3月(7か月)	
		計81名		

2.1.2 NP のプロフィール

登里(2016)を参考に、1期～3期81名のプロフィールを表2にまとめる。

表2 1期～3期のプロフィール

性別	男性(24)、女性(57)
年代	20代(45)、30代(10)、40代(7)、50代(8)、60代(11)
属性	大学学部生(30)、大学院生(2)、社会人(26)、定年退職者(10)、その他(13)
日本語教育に関する知識・経験	知識あり・経験あり(14)、知識あり・経験なし(31) 知識なし・経験あり(5)、知識なし・経験なし(31)

データは応募時点のもの。属性の「その他」は無職や主婦など。

女性が過半数を占め、20代の特に学部生が多いことが特徴である。

本稿では便宜的に、「知識あり」は、大学の主専攻や副専攻または選択科目として学んだ場合、あるいは民間の日本語教師養成講座等で学んだ場合とした。「経験あり」は、民間の日本語学校や地域のボランティア教室で教えた経験とし、教育実習や留学生のチューター等は含めない。なお、「知識なし・経験あり」とは、日本語教師養成講座などで学んだ経験はないが地域のボランティア教室で教えた経験がある人などである。

NPの応募条件として、日本語教育に関する知識・経験は求められないとはいえ、実際には全体の過半数にあたる45名が、日本語教育に関する知識を有していた。しかし、教授経験のある人は全体の1/4弱に過ぎず、さらに、知識も経験も持たない人は4割近くを占めた。

2.1.3 任校における NP の主な活動

NP たちは、通常授業において CP とともに TT⁽²⁾を行う。学校訪問・授業見学を通じて確認された、授業中の NP の主な役割は、会話や新出語導入の際の発音モデルや、ひらがな等の文字指導、机間巡視などだった。

また、授業以外には、日本語クラブ⁽³⁾での日本文化紹介・体験活動（日本料理作り等）、学校行事における日本文化紹介・体験活動（七夕まつりの実施等）、日本語スピーチコンテスト出場生徒に対する指導といった活動に従事した。

さらに、CP からの依頼を受け、生徒向け JLPT 対策授業を放課後に実施する NP や、日本語科目以外のタイ人教師たちから希望者を集め、特別授業を行う NP などもいた。

2.1.4 国際交流基金バンコク日本文化センターの NP 支援業務担当者

国際交流基金バンコク日本文化センター（以下、JFBKK）の NP 支援業務担当者は、2014年度は、日本語部長以下、NP の生活面での支援を行う調整員 4 名（日本人・タイ人各 2 名）、筆者の計 6 名だったが、2015年度には教務支援担当としてタイ人専任講師が新たに加わり、計 7 名となった⁽⁴⁾。

2.2 2014年度・2015年度の NP 教務支援業務

NP 教務支援担当としての筆者の業務は、日本語授業や日本文化紹介活動について、助言を与えたり情報を提供したりすることである。1 期～3 期に対して行った 3 つの主な業務について、以下に述べる。

2.2.1 E メール・電話などによるコンサルティング

日本語や日本語の教え方に関する質問や相談を随時受け付けていた。基本姿勢は「支援要請を待つ」とした。特に 1 期については、NP の役割について筆者自身がよく理解できておらず、彼らが現場でどんな活動を行うのか、その活動のためにはどんな支援が必要なのか見当がつかなかったためである。また、必要と思われる情報を推測し、積極的に提供したとしても、要望がないところに送ったのでは、支援の押しつけになりかねないという懸念があったためでもある。ただ、NP にすれば、顔を合わせる機会がほとんどない筆者に対して質問や相談するのは心理的負担が大きいだろうとも推察された。そこで、質問や相談のきっかけになればとの思いから、着任後 1 か月、3 か月など折に触れ、様子伺いのメールを一斉に送るようにしていた。

コンサルティング件数と相談者数、主な相談内容ならびにコンサルティング手段を表 3 にまとめる。「手段」の中の「対面」とは、NP が所用で JFBKK を訪れた際に筆者が直に会って質問や相談に応じたケースを指す。次項で述べる学校訪問時のコンサルティングは含めない。

表3 Eメール・電話などによるコンサルティングまとめ

	相談者数	件数	主な相談内容	手段
2014年度 1期 (29名)	6	15	JLPT 対策に関する相談 (2) 文法項目の教え方 (2) CP の日本語力向上に関する相談 授業改善に関する相談 教師対象特別クラスに関する相談	Eメール (13) 対面 (2)
2015年度 2期 (40名) 3期 (12名)	26	57	教材に関する相談 (7) 語彙指導に関する相談 (7) 文法指導に関する相談 (6) 発音指導に関する相談 (5) 教師/生徒対象特別クラスに関する相談 (5)	Eメール (51) 電話 (4) 対面 (2)

「主な相談内容」「手段」の後の () は、件数を表す。

相談者数は、1期では全体の2割にとどまったが、2期・3期では全体の半数に上る。多くの場合、一つの相談・質問事項について複数回やりとりを行ったが、それらは「1件」としてカウントした。コンサルティング件数と相談者数が一致していないことからわかるように、1人が複数回相談や質問を寄せる場合が多かった。

相談や質問をするNPに、性別や年代等による傾向は見られなかったが、あえて挙げるとすれば、男性、特に20代からの相談・質問が少ないという実感はあった。ただ、もともと男性の数が相対的に少なかったため、目立っただけかもしれない。

2.2.2 学校訪問、授業見学

学校訪問と授業見学は、NPの活動実態や、NPに対する現場のニーズを把握するとともに、NPとCPがより効果的なTTを実践できるよう助言を行うことを目的に行っていた。訪問計画を立てるのは主に調整員で、学校側に連絡を取り訪問の承諾を得た後に、筆者の都合を確認するという手順をとっていた。筆者の都合がつかない場合は、JFBKKの他の日本語専門家ならびに日本語上級専門家、地方に派遣されている日本語専門家⁵⁾に代行を依頼し、NPの任期中に全ての派遣校を一度は訪問するようにした。筆者自身が訪問した学校数を表4にまとめる。

授業見学後は、見学した授業についてTTの
行い方を中心にコメントやアドバイスを行うほか、授業全般に関するコンサルティングも行った。また、CPの前では言いにくい相談もあるだろうと考え、事前にNPの希望を聞き、必要であればCPとは別々にコンサルティングを行うこともあった。

表4 学校訪問数

	訪問校数
2014年度 1期 (29名)	14校
2015年度 2期・3期 (52名)	33校

2.2.3 研修等の企画、実施

NP・CP 合同研修、中間研修、帰国前報告会の3つを企画し、実施した（表5参照）。

NP・CP 合同研修では、両者が良好なスタートを切るための場を提供することに主眼を置きつつ、TTの概要に関する講義やミニ模擬授業、学校・授業に関する情報共有などを行った。中間研修もTTをメインテーマとし、それぞれが現場で抱える課題を持ち寄り、解決策を探るための講義やディスカッションなどを行った。帰国前報告会では、活動成果についてグループ発表または個別発表を行った。

表5 NPが参加する研修や報告会など（2期を例に）

派遣前	2015年4月	①派遣前研修（於：日本語国際センター）	約1か月
派遣中	5月	②着後オリエンテーション（於：バンコク） 後半2日間でNP・CP合同研修を実施	4日間
	10月	③中間研修（於：バンコク）	2日半
	2016年3月	④帰国前報告会（於：バンコク）	1日
帰国後	3月	⑤帰国報告会（於：国際交流基金アジアセンター）	2日間

太線の枠内が、筆者が企画と実施を担当した部分

2.3 2014年度・2015年度の教務支援業務を通して明らかになった課題

2.3.1 任期中一度もコンタクトのないNPとのつながりの確保

「一度もコンタクトのないNP」というのは、筆者が学校を訪問しておらず、Eメール等によるコンサルティングも行わなかったNPのことである。2014年度は12名（1期全体の約4割）、2015年度は13名（2期・3期全体の1/4）いた。相談や質問がなかったということは、問題を抱えていなかったか、問題があったとしても自力で解決できたということだとも考えられる。しかし、2期・3期の帰国前報告会では、CPとのTTがうまく行えず、活躍の場がないがゆえの自己不全感などを吐露するNPもあり、筆者自身が把握していなかっただけで、実は問題を抱えていたNPもいたことを知った。

前述の通り、筆者は「支援要請を待つ」ことをコンサルティングの基本姿勢としてきたが、そのことが結果的に、問題を抱えるNPを放置しておくことにつながったのだとすれば、反省せざるを得ない。そして、そのようなNPたちに対してどのようにつながりを確保するかが課題であると認識するに至った。

2.3.2 NPのニーズに合った情報提供と、そのタイミング

2期・3期の中間研修では、TTに関する講義のほかに、ひらがなを例として文字の教え方に関する講義も行った。この講義は概ね好評を得たものの、2期の数名からは「派遣前研修が着任直後のNP・CP合同研修で取り上げてほしかった」という声も聞かれた。それは、2期の

着任が新学期と同時期であり、新入生に対してひらがなの指導を依頼される NP が多かったためである。

一方、表3にまとめたように、NPからの相談や質問には共通する事項も少なくなかった。それはつまり、現場でNPに求められる活動が派遣先を問わず多くの学校で共通していたということであろう。授業に関する質問や相談を一度もしなかったNPの中にも、実は同じような疑問や問題を持っていた人はいたのかもしれないとも想像できる。そのため、多くのNPたちが必要とする情報を、いかにタイミングよく、かつ効率的に提供するかが課題であると考えた。

2.4 課題解決手段としてのインターネットによる情報提供

前述した課題を解決する手段として、インターネットを通じた情報提供が有効ではないかと考えた。もともとは、調整員の一人と雑談する中で、「似たような悩みを抱えるNPは少ない。ネット上に“相談室”を設け、コンサルティングを公開すれば、それを読んだ他のNPたちが自力で解決できることもあるのではないか。」と言われたことがきっかけである。

相談や質問を待つのではなく、こちらが先回りして必要な情報を提供すれば、NPたちが現場で直面するかもしれない問題を回避することができる。何が必要とされるかは、1期～3期の授業見学やコンサルティングの蓄積をもとに推測できる。同じような質問・相談に個別に対応する必要がなくなれば、コンサルティングの方法としても効率的である。また、たとえ一方的であっても発信を続けることで、全てのNPとつながり続けることができる。筆者からの発信を糸口として、NPから質問や相談が寄せられることもあるかもしれない。

タイ国内の教師向けリソースは、インターネット上にいくつか公開されてはいる⁶⁾ものの、それらは全て教師を主な対象としている。従って、ティーチング・アシスタントであるNPに焦点を当てた情報提供が必要であると考えた。

3. ブログ「日本語パートナーズ アイディア BOX」実践報告

3.1 2016年度（4期）派遣概要

本ブログの閲覧者となる4期について、派遣概要と60名のプロフィールを表にまとめる。

表6 4期派遣概要

年度	期	NP	派遣期間	派遣先県
2016	4期	60名	【グループ1】 30名（北部、東北部、南部派遣者） 2016年5月9日～2017年3月7日（10か月） 【グループ2】 30名（中北部、中部派遣者） 2016年5月15日～2017年3月7日（10か月）	32県

着後オリエンテーション実施の都合上、30名ずつに分け、1週間違いでの着任とした。4期派遣校60校のうち、2期または3期からの継続派遣校は45校、新規派遣校は15校である。派遣先県は32県に上り、タイ全土にある77県の半数近くになった。

表7 4期のプロフィール

性別	男性 (20)、女性 (40)
年代	20代 (36)、30代 (3)、40代 (3)、50代 (9)、60代 (9)
属性	大学学部生 (26)、大学院生 (1)、社会人 (20)、定年退職者 (9)、その他 (4)
日本語教育に関する知識・経験	知識あり・経験あり (10)、知識あり・経験なし (16) 知識なし・経験あり (3)、知識なし・経験なし (31)

データは応募時点のもの。属性の「その他」は無職や主婦など。

1期～3期と同様、女性が大半を占め、20代の学部生が多い。一方、「知識なし・経験なし」が過半数となり、これまでと比べてその割合が高くなった。

3.2 ブログ開設準備

ブログ開設のための準備は、2016年4月下旬より以下の手順で進めた。

3.2.1 情報提供手段の決定

情報提供の手段としては、Facebook グループページ作成、メールマガジン配信⁷⁾、ブログでの情報提供、の3つを考えたが、Facebook とメールマガジンは、それぞれ以下の理由で棄却した。

Facebook

- ・NPの中にはFacebookのアカウントを取得していない人もいる。
- ・Facebookは、更新のたびに古い情報が画面下に下がっていくため、それらを読むには、画面をスクロールしなければならない。従って、欲しい情報を即座に入手することができない。

メールマガジン

- ・受信フォルダーにメールマガジン専用フォルダーを作るなど、NP自身で整理する手立てを講じない限り、古い配信ほど他のメールに紛れてしまう恐れがある。
- ・視覚的なわかりやすさを狙って写真やイラストを添付したいと考えても、メール本文に埋め込むことができず別の添付ファイルとするほかないため、視覚的効果が薄れる。

一方、ブログであれば、カテゴリー別や更新月別に自動的に情報が整理されるため、古い情報でも検索がしやすい。また、写真やイラストも本文に挿入することができる。そこで、筆者自身のアカウントでブログを開設することとした。

3.2.2 ブログ開設の可否・運営上の留意点についてアジアセンターとJFBKKに照会

日本語専門家が、業務の一環として個人ブログを開設することは許可されるのか、また、許可される場合はどのような点に留意して運営すべきなのか等をアジアセンターとJFBKKに照会した。両者から許可が得られ、ソーシャルメディア運用に関する国際交流基金独自のガイドラインも提供されたため、それを参照しつつブログ運営にあたることとした。

3.2.3 プロバイダー決定

いくつかのプロバイダーを検討し、Ameba（アメーバブログ）に決定した。その理由は、無料で使用できること、同プロバイダーを使用したブログの作成方法を説明するサイトや動画が存在すること、の2点である。筆者にとってブログ開設は初めてであるので、後者は特に重要な点であった。

3.2.4 ブログ運営方針の決定

ブログ開設時期、更新頻度、内容、一度に提供する情報の量などを決定した。これについては、次節で詳しく説明する。

3.3 ブログ運営方針

3.3.1 開設時期と更新頻度

着後オリエンテーションが終了し、4期が各自の任校に赴任するタイミングで開始するのが適当であると判断した。赴任直後に新学期が始まる学校がほとんどだったからである。

また、更新頻度については、NP赴任校のほぼ全てで毎日日本語の授業が行われている中で、必要な情報を必要な時に提供するためにも、間隔を空けない方が良いと考えた。ブログ運営以外の業務との兼ね合いも考慮しながら、週1回の更新を目指すことにした。

3.3.2 内容

次の4点を念頭に、毎回の内容を決定することとした。

①教育現場でNPに求められる役割

1期～3期に対する授業見学や、Eメール等によるコンサルティングを通して、NPたちが現場でどのような役割を求められるか把握していた。4期もおそらく同様のことが求められるだろうと推測される。

②NPがCPをどうサポートできるか

提供する情報が“CPのアシスタント”としての役割を超えないようにすることは、特に重要だと考える。1期～3期に対しては、自分でも気づかぬうちに教師役割を求めるよう

な言動をしてしまうこともあった。その反省に立ち、「CPがすべきこと／NPにできること」を常に意識しなければならない。

③中等教育機関における平均的な学習進度

必要な情報を的確なタイミングで提供する上で欠かせないポイントである。例えば文字学習であれば、ひらがなを何週間で教え、いつ頃カタカナ学習に入るかなどである。

④日本語教育に限らず、教授経験自体を持たない人たちに対する配慮

教授経験者であれば当たり前に行っていること（机間巡視など）も、未経験者には思い至らないことが多い。「当たり前のことは、あえて記事にするまでもない」と考えず、教授未経験者たちにとって何が必要か配慮することが必要である。

3.3.3 一度に提供する情報の量

気軽に読んでもらうには、ブログページを開いた時に、新しい情報が全て画面内に収まっていた方がよいだろうと考えた。情報量が多いと（すなわち文章が長いと）、読むためにスクロールし続けなければならない、その手間が、読もうとする気持ちを削いでしまう恐れもある。パソコン画面1枚分に収まる文章の長さはA4の半分から3/4程度であるため、できるだけこの長さに収めることにした。また、写真やイラストを挿入した場合も、文章と合わせた全体の長さを、パソコン画面の2～3枚分程度に収めることにした。

3.3.4 コメント設定と個人情報の取り扱い

アメーバブログには、閲覧者がコメントを書き込む機能がある。コメントを通して、提供した情報の有用性や、NPのニーズを把握することができるというメリットがある一方で、NP以外の不特定多数にも公開する⁶⁾以上、誰がどんな書き込みをするかわからないという懸念がある。そのため、当ブログは書き込み不可に設定した。内容等に対して要望があれば、Eメールを使用するようNPに伝えることとした。

また、NP・CP・生徒に関する個人情報の取り扱いには十分に注意しなければならないと考え、次のように指針を定めた。まず、NPの実践を紹介する際は、Eメールや口頭でNP・CP両者の承諾を得ること。さらに、本文中には個人名を出さずに学校名のみを記し、授業風景の写真も、個人が特定されぬよう後姿を撮影したものを使用するなどの配慮をすることである。

3.3.5 NPに対する更新の告知方法

当ブログは、読者登録をしない限り更新の知らせが届かない。そこで、更新のたびに4期全員に一斉メールで知らせることとした。さらに、NPの中にはパソコンやインターネットをほとんど使用したことがない人もいることから、メール本文にブログのURLを埋め込み、それ

をクリックすればすぐにブログページが開くよう工夫することにした。

3.4 ブログ運営概要

3.4.1 ブログ基本情報

表8 ブログ基本情報

名称	「日本語パートナーズ アイディア BOX」
URL	http://ameblo.jp/np-thailand/
開始日	2016年5月16日
更新頻度	週1回程度（更新する曜日は定めていない）
使用言語	日本語・タイ語
記事	・筆者自身の実践、NPの実践（1期～4期）、日本語教育関連図書の内容などをもとに執筆 ・読者が情報検索をしやすいように、カテゴリ名を付けておく

4期グループ1がそれぞれの任校で授業初日を迎える日に開始した。情報提供の対象はNPであるため、使用言語は当初日本語のみとしていた。しかし、ブログで紹介されたゲームなどを実践しようとする時、CPの理解や協力は不可欠である。そのため、NPがCPに協力を仰ぐ際の助けとなるように、4回目の更新からは、日本語本文の後にタイ語訳も併記することとした。1回目～3回目の内容については、4回目の更新と同時にまとめてタイ語訳を追加した。タイ語訳はNP教務支援担当タイ人専任講師に依頼している。



図1 ブログのトップページ

3.4.2 記事

表9 記事一覧 (2016年5月～7月)

回	更新年月日	タイトル	カテゴリー	アクセス数 (回)
①	2016. 05. 16	ひらがなカード作成時の注意	文字の教え方	85
②	05. 19	立ち位置に気を配りましょう	その他	77
③	05. 24	ひらがなの「とめ」「はね」「はらい」	文字の教え方	109
④	05. 27	便利な小道具	教材教具	159
⑤	05. 31	曜日を覚える①② (2回に分けて発信)	言葉の教え方	135
⑥	06. 03	名前の覚え方	その他	105
⑦	06. 08	カタカナ学習「仲間探し」	文字の教え方	104
⑧	06. 13	浴衣の着方紹介動画	文化紹介	71
⑨	06. 20	板書に気を付けましょう	文字の教え方	73
⑩	06. 24	教室の飾り付け紹介	文化紹介	154
⑪	06. 29	カタカナ学習「メニューを読む」	文字の教え方	88
⑫	07. 07	カタカナ学習「言葉探し」	文字の教え方	52
⑬	07. 14	「日本の音楽」紹介ボード	文化紹介	124
⑭	07. 25	授業を盛り上げる小道具	教材教具	123

「アクセス数」はブログ更新日のもの

ブログ開始から7月までの記事一覧を表9に、同期間のカテゴリー別掲載数を表10にまとめる。この期間に「文字の教え方」が突出して多いのは、新入生の授業でひらがなとカタカナを教える時期だったためである。他にも、新年度開始時期であることや、教壇に立つこと自体が初めてというNPがほとんどであることを考慮し、生徒たちの名前を覚えるため

表10 カテゴリー別掲載数

文字の教え方	6
言葉の教え方	1
教材教具	2
文化紹介	3
その他	2

の工夫や、机間巡視の行い方や板書の際の注意など教室授業の基本事項も情報として提供した。

3.4.3 ブログに対する反響

①アクセス数

アメーバブログには、ブログの被閲覧回数を「アクセス数」として日ごと、時間ごとに自動解析する機能がある。ブログ運営者にとっては、自分のブログの人気度を測るためのバロメーターともなる。筆者も、ブログ更新の翌日に、更新日のアクセス数を確認し記録していた(表9参照)。この数字を見る限り、4期60名ほぼ全員が更新当日に閲覧していたのではないかと予想される。ほとんど毎回アクセス数が60を上回ったのは、同一人物が複数回閲覧したり、NP以外の人が閲覧したりしたためだろうと推測される。なお、回によるばらつきが大きいのは、更新時刻が毎回異なっていたことと関係しているかもしれない。午前中に更新した場合は読まれる回数も多くなり、夕方に更新した場合はその数が少なくなると予想されるからである。

② NPからのコメント

ブログで紹介した活動を、自分のクラスで実践してみたとEメールで報告してくれるNPもいた(表11参照)。

表11 ブログに対する4期からのコメント(一部)

ひらがなカード作成時の注意	A「教科書体、初日の自己紹介では使いませんでしたが、二日目の資料では気づいて使うようにしています。」
ひらがなの「とめ」「はね」「はらい」	B「今日まさに、初めてひらがなを学習をするクラスを担当することになり、今回いただいた情報や…中略…非常に役立ちました。」(注:原文ママ) C(水習字を実施し)「ご指摘のとおり筆のほうがとめ、はらい、はねの感覚は感じやすいはずです。」
便利な小道具	D「例のボールを作って「コミュニケーション・ボール」と名づけました。」

A～DはNPを表すが、イニシャルではない。

4. ブログ利用状況に関するアンケート

ブログの利用状況を詳細に把握するため、また、今後の改善に役立てるため、開設後2か月をめどに、利用状況に関するアンケート調査を実施することにした。

4.1 調査実施要領

調査期間 2016年7月16日(土)～23日(土)

調査対象 4期(60名)

調査手段 GoogleFormを利用したオンラインアンケート

調査項目 閲覧頻度、説明のわかりやすさ、情報の有用性、更新頻度の適当さ、ブログを介したCPとの対話、紹介した情報の利用状況、今後望むテーマ(表12参照)

表12 質問項目

<p>Q1. ブログを見る頻度はだいたいどのくらいですか。1つだけ選んでください。「Other」を選んだ場合は、具体的な頻度を書いてください。 ①週に2回 ②週に1回 ③2週に1回 ④ Other</p>
<p>Q2. ブログの説明はわかりやすいですか。1つだけ選んでください。 ①とてもわかりやすい ②わかりやすい ③ややわかりにくい ④わかりにくい</p>
<p>Q3. ブログで提供している情報は役に立ちますか。1つだけ選んでください。 ①とても役に立つ ②役に立つ ③あまり役に立たない ④役に立たない</p>
<p>Q4. 更新の頻度は適当ですか。「適当」か「Other」かどちらか選んでください。「Other」を選んだ場合は、具体的な頻度を書いてください。(例：月1回がいい) ①適当 ② Other</p>
<p>Q5. ブログの内容について、CPと話したことがありますか。1つだけ選んでください。 ①更新されるたびに話している ②ときどき話している ③あまり話していない ④話したことはない</p>
<p>Q6. ブログで紹介した情報を実際に利用したことはありますか。あれば、その項目に✓を入れてください。いくつでも構いません。</p>
<p>Q7. 今後望むテーマに✓を入れてください。いくつでも構いません。「Other」を選んだ場合は、できるだけ具体的に希望テーマを書いてください。</p>

4.2 調査結果

全体の2/3にあたる40名から回答を得た。ただし、質問項目によっては無回答もあった。

4.2.1 ブログ閲覧頻度

閲覧頻度は、「週に1回」が最も多く、回答数は27だった。次いで、「2週に1回」が6、「その他」が5、「週に2回」が2という結果だった。「その他」を選択した場合は具体的な頻度を書いてもらったが、それを見ると、どの回答も「更新を知らせるメールが来た時に見る」だった。従って、これらも「週に1回」に含めると、合計は32となり、週に1回閲覧しているNPが8割に上った。

4.2.2 説明のわかりやすさ、情報の有用性、更新頻度の適当さ

全員が説明のわかりやすさと情報の有用性を評価した(「とてもわかりやすい」23+「わかりやすい」17、「とても役に立つ」11+「役に立つ」29)。さらに、更新頻度については、全員が「適当」と回答した。

4.2.3 ブログを介したCPとの対話

ブログの内容についてCPと話したことがあるかどうか尋ねたところ、「ときどき話している」が最も多く全体の4割(16)、次いで「あまり話していない」が3割強(14)、「話したことはない」が2割強(9)だった。「更新されるたびに話している」と答えた人はいなかった。

なお、回答数は39だった。

4.2.4 紹介した情報の利用状況

表13 紹介した情報の利用状況

ブログタイトル	回答者数	ブログタイトル	回答者数
立ち位置に気を配りましょう	31 (81.6%)	ひらがなカード作成時の注意	3 (7.9%)
ひらがなの「とめ」「はね」「はらい」	19 (50%)	「日本の音楽」紹介ボード	3 (7.9%)
板書に気を付けましょう	17 (44.7%)	曜日を覚える①	2 (5.3%)
名前の覚え方	15 (39.5%)	カタカナ学習「仲間探し」	2 (5.3%)
便利な小道具	12 (31.6%)	カタカナ学習「メニューを読む」	2 (5.3%)
浴衣の着方紹介動画	9 (23.7%)	カタカナ学習「言葉探し」	2 (5.3%)
教室の飾り付け紹介	4 (10.5%)	曜日を覚える②	1 (2.6%)

「回答者数」の（ ）の数字は、回答者総数（38名）に占める割合を表す。

ブログで紹介した活動を実践したことがあるかどうか尋ねたところ、どの活動も実践されていた。回答数の多かった順に並べたものが表13である。「立ち位置に気を配りましょう」は、授業中の机間巡視の行い方について説明した記事だが、机間巡視は誰もが毎授業行うことなので、実践者が多かったのだろうと推察される。

なお、この項目の回答者数は38名だった。残り2名はどの活動も実践したことがないということかもしれないが、選択肢として「どれも実践したことはない」を設けなかったため、無回答が何を意味するかは不明である。

4.2.5 今後望むテーマ

表14 今後望むテーマ

テーマ	回答者数	テーマ	回答者数
会話練習の方法	24 (60%)	漢字の教え方	15 (37.5%)
日本文化紹介	24 (60%)	文法の教え方	11 (27.5%)
教材作成	18 (45%)	NPの実践例	10 (25%)
語彙の教え方	18 (45%)	ひらがなの教え方	8 (20%)
クラス運営	16 (40%)	カタカナの教え方	4 (10%)
ティーム・ティーチング	16 (40%)	その他	2 (5%)

「回答者数」の（ ）の数字は、回答者総数（40名）に占める割合を表す。

回答数の多かった順に並べてみると、「会話練習の方法」と「日本文化紹介」が同数（24）でトップとなった。この二つについて、実施上の難しさを感じているNPが多いということであろう。「その他」としては、「日本語の発音『し』『す』『ち』『つ』の発音指導がうまくできない」、「タイにしかない使えるレアリア」が挙げられていた。

5. 今後の展望・課題

アクセス数と、アンケート調査の結果から、ブログによる情報提供は、NP たちに役立つものと受け止められていることがわかった。更新頻度も全員が「適当」と答えたので、今後も週に1回のペースを維持していきたい。

一方、今後運用を続ける上で課題もある。

まず、アンケート調査によって明らかになった NP のニーズに応え、情報を提供していかなければならない。「今後望むテーマ」のトップだった「会話練習の方法」は、これまで取り上げたことがなく、同じくトップだった「日本文化紹介」は3回取り上げただけである。今後はこの二つに関する情報を積極的に提供していきたい。ただ、「日本文化紹介」については、文化紹介のための素材が欲しいのか、文化紹介授業の行い方を知りたいのか、調査結果を見ただけでは分からない。この点については、Eメール等を通じて改めて再調査する予定である。

次に、CP との対話を促す手立てを考える必要がある。ブログ開設当初は、あくまで NP を対象に記事を書き、必要があれば CP にタイ語訳を読んでもらえればよいと考えるに過ぎなかった。実際に、4割の NP が、ブログの内容について CP と時々話しているという結果が出たので、筆者の意図は達成できたものといえる。しかし、この結果を見て、逆に「もっと頻繁に対話してもらえないだろうか」とも考えるようになった。それは、これまでの授業見学を通して、よい TT を行うためには CP と NP の対話が不可欠であると知ったからである。それならば、当ブログが両者の対話の媒介として機能しないだろうか考えるようになったのである。現在は NP にのみ更新の告知をしているが、今後は CP への告知も考えたい。両者が同じタイミングで記事を読み、同じように興味を持ってくれたら、そこから対話が始まるかもしれない。

本稿執筆時の2016年8月、ブログは運営中である。4期が帰国する2017年3月まで継続予定だが、終了後、改めて本実践の総括と評価を報告したい。

〔注〕

- ^① “日本語パートナーズ”派遣事業については、登里（2016）に詳しい。
- ^② ここで言う TT は、複数の教師が同時に教室に入り授業を行う形態を指す。
- ^③ 「日本語クラブ」とは、日本語や日本文化に関する活動を行う時間のことである。「クラブ」といっても、いわゆるクラブ活動とは異なり、正規の授業の一部として行われる。
- ^④ 2016年度には、調整員が日本人・タイ人3名ずつ（計6名）となったほか、日本から健康相談員1名が派遣され、総勢10名となった。
- ^⑤ 東北部中等教育機関担当日本語専門家1名、北部中等教育機関担当日本語専門家1名。
- ^⑥ JFBKK の公式サイトでは、JFBKK 開発教科書に準拠した教師用リソースを提供している。中等教育専攻科目用教科書『あきこと友だち』については、『あきこと友だち Can-do ハンドブック』電子版を、同じく中等教育の選択科目用教科書『こはるといっしょに』シリーズであれば、授業で使用するパワーポイント教材などである。また、地方派遣元日本語専門家の2名らで開発したオンラインリソース「見る！」

日本語の教え方」もある。

⁷⁾三浦他 (2006) は、ブラジル国内の日本語教師を主な対象としたメールマガジンの配信について報告している。

⁸⁾アメンバーブログには、閲覧者を制限する機能はない。

〔参考文献〕

登里民子 (2016) 「『日本語パートナーズ』派遣事業の概況」『国際交流基金日本語教育紀要』第12号、113-120、国際交流基金

三浦多佳史・吉川一甲真由美エジナ・遠藤クリスチーナ麻樹 (2006) 「ブラジルにおけるメールマガジンを利用した日本語教師ネットワーク構築の試みー現実に機能しうる日本語教師間ネットワークとはどんなものかー」『国際交流基金日本語教育紀要』第2号、105-118、国際交流基金